

第7回 大阪府・河内長野市 未来技術地域実装協議会 議事概要

■日 時：2022年10月31日（月）10:00～12:00

■開催形式：ウェブ会議による開催

【議事要旨】

（1）協議会委員の規約（協議会委員の変更）について

- ・資料1について、事務局より説明し、規約の変更（第4条別表）について承認された。

（2）大阪府・河内長野市 未来技術地域実装協議会について

- ・資料2について、事務局より説明。

（3）今年度の事業計画について

- ・資料3について、事務局より説明。

（4）質疑応答及び意見交換

（佐藤委員）

- ・様々な自治体で自動運転の実証実験が行われているが、有償化し、継続的に運行していける見込みがあるところは少ないように思う。遠隔監視システムの導入等、自動運転システムが高度になるほど費用も高くなる。地域と一体となって取組みを進めていることが河内長野市の特徴である。この特徴を活かし、継続的に運用できる仕組みを検討いただきたい。

（河内長野市）

- ・河内長野市が自動運転に取り組むのは、地域の方々の運転負担軽減や安全性確保のため。自立運営を継続していくためには、この2点の課題解決が必要と考える。経費とどのように収入を得ていくのが課題となるが、これまでの取組みを進めながら、今後も体制を構築していきたい。

（江川会長）

- ・河内長野市はヤマハと連携し、ゴルフカートを住民移動に使うための車両の改造にも一生懸命取り組んでいる。住民だけでなく、活動をサポートしている運転手とも意見交換をしながらシステム構築に取り組んでいる姿勢をみると、将来に期待できる。

（日野副会長）

- ・公共交通の観点から3点確認したい。
- ・【1点目】公共交通機関との連携をどう考えるのか。「ラストワンマイルの移動支援」を目指すとしているが、現状をみると、バス停利用がなく、スーパー利用など、地区内での限定的な移動サービスになっているように思う。そうなるラストワンマイルの利用ではない。今後、このようにエリア限定のサービスとして利用していくのか、公共交通の中に位置づけるのか。また、「花の文化園やくろまるの郷と

の連携による観光活用」とあるが、ルートが延伸されると、既存の公共交通に影響を与えかねない。公共交通の中にどのように位置づけるつもりなのか、考えを聞きたい。

- ・【2 点目】事業の目標と評価を現時点でどう考えているのか。これまで採算性や持続可能性、横展開などについて議論してきたが、今年度事業終了ということなので、私たちも理解しておいた方がいいと思う。
- ・【3 点目】今後は市の独自事業として展開されるということだが、運営体制について教えてほしい。

(河内長野市)

- ・【1 点目】現状、バス路線の 1 号線上で駐停車できないことから、最寄りのバス停に行きたいということであっても、コノミヤまで行って、コノミヤ前のバス停から三日市駅に行くという利用方法が多いのではないかと考える。バス停との接続については、南海バスとも連携しながら検討していきたい。
観光活用については、既存の交通網をクルクルが走るということではない。南花台と花の文化園は一般開放されていない道で繋がっており、そこにクルクルを上手く活用する方法を考えている。
- ・【2 点目】利用料のみで収支のバランスを取るの難しく、自立運営をどうしていくのかが採算性の課題であると考えている。横展開については、公共交通空白地での横展開として、下里地区はいい事例になったと認識。下里地区の運営方法については、今年度から本格運行が始まったので、地域の自治会と密に連絡を取りながら検討していきたい。
- ・【3 点目】分野が多岐に渡るため、データ連携を軸に地域実装協議会を設けた上で、各取組みについては分科会を設け、そこで議論していきたい。

(日野副会長)

- ・公共交通の中に組み込むのかどうか、今後もしっかり考えていただきたい。公共交通会議でも説明をお願いしたい。下里については、過疎地での運用であり、かつ有償運行ではないので、当地のクルクルとは異なると考えられる。但し今後のことも考えると、評価指標を設定し、地元協議の中でしっかり検討してもらいたい。

(江川会長)

- ・バスとの連動性についてはこれまで検討してこなかったもので、今後考えてみてはどうか。

(河内長野市)

- ・ニーズがどこにあるのかを確認したうえで、採算性を考える中で、利用者を増加させるための方法として、バスとの連携にもチャレンジしていきたい。

(内閣府地方創生推進事務局)

- ・有償化や地域住民主体の自立運営の可能性検証など、河内長野市では、全国に先駆けた検証がなされていると理解している。報告にもあったが、今年度から、同じデータ連携基盤上で、自動運転も含め、遠隔医療、介護等のサービスを連携させることによって、さらに事業性を考えていく取組みが始まっている。今後は 5 年間の検討を活かし、幅広いサービスと併せて、自立性についても検討されていくものとする。これまでの河内長野市の取組みは一定程度成果が上がっているものと理解している。

(佐藤委員)

- ・公共交通やタクシーなどの既存交通と win-win の関係を作っていくことが必要と考える。ルートを延伸することで、他の交通と揉めることが実際にあるので、注意する必要がある。
- ・広告収入は色々な実証実験で取り入れられているが、上手くいっている事例があまりないので、もう一工夫必要だと思う。河内長野市の場合、上手く地域で回していくことが一つのポイントになると考える。

(河内長野市)

- ・費用面での継続性を課題に感じている自治体が多いと思う。広告収入だけで費用を賄うのは難しいので、色々な地域活動とあわせて採算性を求めていきたい。
- ・費用について、燃料費となる電気代はコノミヤに負担いただいております、下里クルクルは地域で負担いただいている。市の負担は車両の維持費。この予算でこれだけの移動支援ができるなんてと他の自治体からも評価いただいている。今後、自動運転の高度化を目指す中で費用も上がるが、ヤマハとも相談しながら検討していきたい。

(江川会長)

- ・有償ボランティアについて、労働基準関係法に関する記載があるが、この点についてももう少し詳しく教えていただきたい。

(河内長野市)

- ・労基法上、雇用と有償ボランティアの境目が曖昧。雇用ではなくボランティアという位置付けでの仕組みが必要と考えている。

(江川会長)

- ・有償ボランティアは社会的に認められた観点とあっていいのか。

(河内長野市)

- ・南花台スーパーシティ構想のなかで、地域活動の中から生まれたものについてはボランティアと位置付けられるよう規制緩和の提案をしたが、何でもかんでも有償ボランティアというのは法的にも難しいので、慎重にということだった。

(江川会長)

- ・このあたりもクリアにしていく必要があると思う。